

製作スタッフ



海苔監修・指導 川崎 賢朗



海苔監修・指導 佐々木 成人



VFX 浜井 貴子



録音 清水 雄一郎



記録 穂盛 文子

編集 村上 雅樹
音響効果 松浦 大樹
録音助手 南川 淳
大平 篤希
メイク 小林 真由
メイク助手 宮沢 風香
小道具 向後 彩華
衣装助手 熊田 侑里子

監督助手 芳賀 直之
藤原 貴翔
撮影助手 田村 ゆう子
御園 涼平
金澤 鳩
美術助手 鈴木 貴士
ピアノ指導 原口 沙矢架
青木 雄介
製作主任 福田 裕矢
製作進行 安藤 茉里奈

新聞掲載から

「ら・かんばねら」完成試写会



伊原 剛志 いはら つよし



(プロフィール)

1963年福岡県生まれ。大阪府出身。ジャパンアクションクラブ(現JAE)出身

1983年舞台「真夜中のパーティー」で俳優デビュー

1996年NHK連続テレビ小説「ふたりっ子」で全国的に注目され、映画、ドラマ、舞台と幅広く活躍。日本国内の作品のみならず、クリント・イーストウッド監督作「硫黄島からの手紙」('06)、ブラジル映画「汚れた心」('12)など海外作品にも多数出演。その他の出演作品に「十三人の刺客」('10／監督:三池崇史)、「超高速！参勤交代」シリーズ('14, '16／監督:本木克英)、フランス映画「不思議の国のシドニ」('25)など。

映画「ら・かんぱねら」への想い ~完成披露試写会の舞台挨拶より~

これまで、ピアノに触ったり弾いたことはなかった。台本を読んだ時、徳永義昭さんの事を知り自分がどこまで出来るか、主役が決まってから一日も欠かさず6時間以上の挑戦をしました。

しかし、途中で壁にぶつかった時、7年も続けた徳永さんは凄いなと思いました。僕にとって「ラ・カンパネラ」は大いなる壁で、登れるかどうか不安がありつつも楽しみながら挑戦しました。ラストシーンは、持てる力を100パーセント以上発揮できたと思います。

また、海苔漁師を主人公にした映画は、初めてなので戸惑いました。ピアノは勿論の事、海苔作業や佐賀弁のマスターなどありましたが「人間って目標を持つ事は大事、夢があれば叶う」との思いがありました。

佐賀の印象については、来る前より今は100倍ほど好きになりました。本当に温かくて熱い人たちと美味しい佐賀のりや米など最高の出会いでした。佐賀から盛り上げ全国へ発信して行きましょう。佐賀最高です！

南 果歩 みなみ かほ



(プロフィール)

女優。1984年、短大在学中に映画「伽耶子のために」のヒロインでデビュー。テレビや映画、舞台で幅広く活躍。2015年には映画「マスタレス」で全米デビューも果たす。2022年AppleTV+「PACHINKO season1」では、メインキャストとして出演。「第38回インディペンデント・スピリット賞」にてクリティックスチョイスアワードを受賞。近著にエッセイ「乙女オバさん」(小学館)、絵本「一生ぶんのだっこ」(講談社)。映画「君の忘れ方」「Rule of living」台湾映画「腎上腺」などに出演。被災地を中心に読み聞かせボランティアも行っている。

映画「ら・かんぱねら」への想い ~完成披露試写会の舞台挨拶より~

徳永義昭さんと千恵子さん夫婦がモデルとして、人生を歩んでこられた事があったからこそ、この映画が誕生したと思います。どんな職業の人でも自分がやりたいと「行動を起こし、実現するまで」コツコツと積み重ねて行くことの素晴らしさが、この映画に描かれています。大人の人たちにも観て頂きたいし、大人になる事に夢を持てない子供たちにも是非、観て貰って、大人ってこんなに楽しい人生を送っているのを感じてほしいです。

佐賀に来てみると、気候も良いし、奥ゆかしい人情と温かさに触れ合うことができました。また、米も魚も肉も野菜も全て美味しく、こんなに魅力が詰まっているのに、みんなが佐賀の魅力に気付いていないと思います。映画と共に佐賀の魅力を知って頂きたいです。

これは、「メイドイン佐賀」の映画です。小さな佐賀県の小さなところの物語ですが、大きく広がる要素を持った映画です。期待しています。

主なキャストの皆さん



不破 万作 ふわまんさく

1946年大連生まれ、千葉県育ち。
唐十郎主宰の劇団状況劇場を83年に退団
伊丹十三監督作品「マルサの女2」('88)、「あげまん」
('90)、「ミンボーグの女」('92)などで注目を集め。多くの名監督に愛され「新宿泥棒日記」('69/大島渚監督)、「赤い橋の下のぬるい水」('01/今村昌平監督)、「スパイ・ゾルゲ」('03/篠田正浩監督)、「アキレスと亀」('08/北野武監督)など多くの作品に出演。



緒形 敦 おがた あつし

1996年6月20日神奈川県生まれ。
父は緒形直人・祖父は緒形拳の俳優一家
2017年TBS日曜劇場「陸王」で俳優デビュー。主な出演作は、ドラマ「MAGI-天正遣欧少年使節-」、「いだてん」「相棒19」「大豆田とわ子と三人の元夫」、映画「LOVE LIFE」「レジェンド&バタフライ」、舞台「カノン」踊り部田中泯「外は、良寛。」「わが町」など。最新作はドラマ「推しの子」。



大空 真弓 おおぞら まゆみ

東京生まれ。
母と共に歌舞伎を観に行った帰りに歌舞伎座の前で、スカウトされ1958年新東宝入社。映画「女王蜂」でデビュー。主な作品は、「愛と死をみつめて」('64)、「白と黒」('63)、「風林火山」('69)、「華麗なる一族」('74)、テレビドラマや舞台に多数出演。1990年には「人生は、ガタコト列車に乗って…」で15回菊田一夫演劇賞を受賞。



田中 がん たなか がん

1954年12月15日長崎生まれ。
劇団七曜日～劇団ふるさときやらばんを経て、現在chohai所属。
長崎発地域ドラマ「かんざらしに恋して」、ドラマ「第9マキナ!!」、映画「こん、こん、」、舞台「七曜日」「鬼ヶ島」「サラリーマンの金メダル」「男のロマン」「女のロマン」その他の作品に出演。



どぶろっく

2004年9月コンビ結成。保育園から大学まですべて一緒に佐賀県基山町出身「基山ふるさと大使」。つねに「愛」をテーマに歌い続ける歌ネタ芸人。2013年「もしかしてだけど」でCDメジャーデビュー。お笑いライブ出演や音楽フェス出演などの活動のほか、サガテレビにて「どぶろっくの一物」レギュラー出演中。「キングオブコント2019」優勝。



枝元 萌 えだもともえ

滋賀県出身。藤健一事務所俳優教室修了後、ユニット「ハイリンド」を結成。2022年に第57回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。2023年に第73回芸術選奨文部科学大臣演劇部門新人賞受賞。ドラマ「わろてんか」(NHK)、「鵜頭川村事件」(WOWOW)、映画「こんにちは、母さん」(山田洋次監督)ほかに出演。近年の主な舞台「セツアンの善人」(白井晃・演出)など。



鹿毛 喜季 かげ よしき

1998年生まれ、福岡県出身趣味はお菓子づくり。博多祇園山笠にも出ている博多っ子。小学1年生より舞台に立ち、映画「信さん～炭坑のセレナーデ～」('10)/平山秀幸監督)にNHK 福岡 地域ドラマ「スイーツ」、FBS開局50周年スペシャルドラマ「天国からのラブソング」に出演。2018年には「野球部員、演劇の舞台に立つ」に出演、その他CM、ドラマ、映画、舞台などで活躍中！



川崎 瑠奈 かわさき るな

1998年生まれ、佐賀県佐賀市川副町出身。2022MissJapan 佐賀グランプリ8歳からティーンズミュージカルSAGAに所属し初舞台を踏む。佐賀東高校演劇部卒業後、劇団青年座養成所へ入団。その後、東京で舞台女優として活動しており、映画、CM、ドラマ等活動の幅を広げている。

九州キャストの主な皆さん



今野工務店社長、今野正一役 万丈



剣道場主、蜷川正彦役 上瀧 雅大



南川副支所運営委員長、森山昇役 岩坪 光輝



漁協青年部部長、森山亮一役 松下 莉久



ラーメン店「夫婦軒」大将、浜井大介役 岩本 将治

ラーメン店「夫婦軒」女将、浜井遼子役 小貫 薫

徳田水産工場長、香田仁役 楽満 信幸

ピアノ調理師、江里口順子役 さざわ りか

自治会会長、近藤寿役 橋本 和雄

近所のおばちゃん、吉岡信子役 坂本 幸代

近所のおばちゃん、伊東富貴子役 本村 久美子

楽器店店長役 松尾 秀昭

パチンコの女性客 吉村 志保

高校生時代の時生役 木寺 玲音

高校生時代の奈々子役 舟越 幸音

ピアノの女子生徒役 北村 桃々

ピアノの女子生徒役 真子 夏美

ピアノの生徒、太田仙吉役 塙倉 謙之

ピアノの男子生徒役 片渕 奏汰

チェロケースの女子大生役 田中 咲衣花

ビオラケースの女子大生役 田中 由衣夏

古湯温泉山口屋支配人役 栗原 高広

「う・かんばねら」の ロケ地 Map



天山 富士町 富士建設（山口旅館）

皆振山脈



佐賀修道館



浪漫座



富士建設（山口旅館）

バーラーラッキー下田店

佐賀県漁協海苔共販センター

R4AA

佐賀修道館道場

白石町



干潟よか公園



佐賀城公園

有明海

R4A

R49

R30

九州佐賀国際空港

徳吉ラーメン

枝國医院

ラボール

川副ショッピングセンター

海童神社

戸ヶ里漁港

小川樂器柳川店

柳川・九研

海苔加工工場

有明海漁業協同組合

南川副支所

柳川市



佐賀県立佐賀東高等学校



有明海海苔漁場



徳吉ラーメン



戸ヶ里漁港

閉店した店が支援する会の拠点に

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

副デスク 松本 真由美

令和5年の初夏の事です。映画の製作を支援する会の手伝いをしないかと声を掛けられました。その映画は、私の高校時代の同級生のお兄さんがモデルとなっていました。好奇心旺盛な私は、やってみたいとの衝動にかられワクワクしていました。まだ、支援する会は発足していないし、事務所もありませんでした。

そんな時です。モデルの徳永義昭さんの妹で同級生から、私の実家を事務所として貸してほしいとの打診がありました。かつて徳永さんも学んだ佐賀東高校の目の前の飲食店だった場所でした。卒業生なら誰もが知る店でしたが閉店して年数が経ち、内部はボロボロで事務所として使うには、かなりの修復をしないと使えない状態でした。

監督やプロデューサーに判断してもらうことにしましたが、結果はNOでした。しかし、支援する会BOSSの川崎賢朗さんや川原常宏事務長などメンバーみんなが、自分たちの手で改装しようと決断され、活動の拠点として事務所にする事になりました。

改装作業は大変でした。でも、支援する会のメンバーや製作スタッフも手伝い事務所らしくなり、ススだらけの顔から微笑みがこぼれています。

事務所が動きだすと、かつて店の常連の同級生たちが次々に訪れ、思い出話に花が咲きました。約40年ほど続いた店が閉店して寂しくなった場所が、再び活気付いた事を両親も喜んでくれると思います。



フードコーディネーターで映画の仲間入り

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
副デスク兼フードコーディネーター 川原 麻子

私は、支援する会での大きな仕事のひとつとして、フードコーディネーターを任せられました。映画「ら・かんぱねら」でのフードコーディネーターは、海苔師さんの日常の食卓を再現して、さりげなく映画を裏側から支える役目です。

支援する会の藤田あずささん、馬場亜希子さん、納富直美さんと一緒に協力し合って何とか大役をやり遂げることが出来ました。映画の食卓のシーンは、朝食には、お味噌汁・玉子焼き・アジの開きなど、昼食では、海苔を巻いた爆弾おにぎり弁当を作りました。

これが、映画の食卓シーンとして撮影されますが3人とも不安でたまりません。監督に試作を確認して頂き、一回でOKをもらい不安な気持ちも少し晴れたところで本番に臨みました。

映画撮影は、助監督たちがシーンの流れを確認する段取りから始まり、役者が入って何回かテストを重ね本番になります。私たちは、テストで減った料理を元のように整え、またテストと繰り返され、セットの中を出たり入りで大忙しです。さあ次は本番です。3人に緊張が走ります。独特な空気に包まれます。その時、助監督のシーン〇〇番スタートという声が現場に響き、撮影が始まります。息を殺して見守る中”カット”の声の後にハイOK～監督の声を聴いてホッとしたのを今でも覚えています。

視聴した映画の中に、私たちのあの日の出来事が鮮明に映し出され、目頭が熱くなりました。

このような経験は、中々出来る事ではありません。この機会を与えて頂いた映画スタッフに感謝しております。



支援する会での体験は、人生の宝物

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

女性部会長 山西 恵美子



振り返って見ますと、令和5年9月に支援する会のBOSS・川崎賢朗さんとデスク・鐘ヶ江留美子さんに声を掛けられ支援する会に参加する事になりました。私は会の為なら、出来る事は何でもしたいとの思いがありました。

実行委員会では、女性部会長にと皆さんから声が掛かり、頑張ろうとしていましたが、実際には、仕事の関係で会社を中々抜けられず、そのため役に立たず迷惑を掛けてしまいました。ロケ中の4月1日の事です。この日は休みだから頑張れると思っていた矢先、膝を痛め、炊き出しの手伝いではカレーの具材やサラダの野菜切りも横目で見ながら、何も出来ない自分が悲しく思っていました。そんな時でも、支援する会の皆さんの温かい対応と眼差しに強い勇気を頂きました。

またBOSSに、小豆島出身の主人まで支援する会に誘って頂き主人と2人で参加ができ、とても出席しやすくなりました。支援する会は、とても素晴らしい仲間たちです。その仲間と一緒に映画づくりに参加できた事や監督をはじめ多くのスタッフと知り合えた事は、私の人生の宝物だと思っています。感謝しかありません。ありがとうございました。



監督との出会いは、八女から

映画「ら・かんばねら」を支援する会

車両部(ドライバー) 今村 久幸

鈴木監督と最初の出会いは、前作「野球部員演劇の舞台に立つ」の撮影が八女市で行われた8年前でした。その後も親交を続け、4年前監督から次は佐賀で映画を作ると原稿を見せて頂きました。監督の思いが詰まったストーリーで、原作について感想を聞かれたり、佐賀弁についてどう思うかなど話しました。

その後、主演は〇〇、奥さんは△△と監督と夢を語りながら、映画の内容を膨らませていき、監督も本気モードになり、何回も台本の書き直しをやっていました。

ロケが始まる3月から、オーデションに応募し参加が決まりました。また、支援する会の活動では、撮影資材を運ぶトラックの運転手をやったり、エキストラ出演と、今まで経験した事のない貴重な体験をさせて頂きました。

映画を鑑賞した時です。台本上で想像していた以上に映像が綺麗で、家族愛(夫婦愛)・仕事仲間との団結・環境問題も提案されており、「素晴らしい映画が生まれた！」と感動を覚えました。

エンドロールに自分の名前を見つけた時は、感極まり改めて貴重な体験をさせて頂いた事に感謝しかないと思いました。

支援する会の皆様、楽しい時間を共有させて頂きありがとうございました。

最後に映画「ら・かんばねら」の全国で大ヒットを祈念致します。



監督と出会い、姪と一緒に映画出演

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

炊き出し班 舟越 朝菜

私が鈴木一美監督と出会ったのは、監督がプロデューサーとして製作された福岡県八女市での映画「野球部員、演劇の舞台に立つ」でした。

今度は、佐賀県で監督として映画を撮ると聞き、応援を兼ねて口ヶ地見学に行くつもりだけでした。気が付いて見ると、映画に出演するオーディションがあると聞いては受け、人手が足らないからとボランティアをやり、炊き出し隊で料理もつくりました。その他、美術のセットづくりを手伝ったり、エキストラで出演するなど貴重な経験を沢山させて頂きました。

姪たちも映画に関心があり、上の姪はキャストに、下の姪はエキストラでオーディションに挑戦し、2人とも合格し、それぞれ撮影に参加して素敵なお経験が出来ました。ありがとうございます。

支援する会に参加するまでは「知り合いの監督の映画…」だったのがプラスされ「私も姪も参加した映画…」となりました。ポスター掲示やインターネット配信などで沢山の知人や親戚それに会社の同僚などへ宣伝し、時には通りすがりのお店などに応援をお願いしています。

今では、映画どう？いつから？こっちでもやるの？観るからね！と暖かい言葉に感謝の日々が続いています。後は、仲間のみんなから感想を聞くのが楽しみです。



笑いが絶えないスタッフルーム

映画「ら・かんばねら」を支援する会
スタッフルームチーム 石井 恵美

一番最初にスタッフルームに行った時は、本当に気楽なミーハーな気持ちからでした。

しかし、皆さんと関わって行くに連れ情熱が伝わり、この映画を色んな人に見て貰いたいと云う気持ちになって行きました。そして、自分はスタッフとして何を手伝いできるか、何が出来るか分からぬまま、とにかくスタッフルームへ足を運びました。作業としては、パンフレットの折り込みや電話対応が主な作業でした。

その中でも、オーディションの申し込みの時は、余りにも多い応募があり、対応するスタッフも初めての経験なので、てんてこ舞い状態！毎日遅くまで作業を行い、ぎりぎりで乗り切った想い出があります。

でも、そこでみんなとの仲がグッと縮まったと思います。その後も、色々な事がありましたが、いつもスタッフルームは笑いが絶えなかったです。

一番印象に残ったのは、完成披露試写会が佐賀市の文化会館であった時です。大ベランダアドバイザーの指導のもと、試写会の進行役を担当させて頂いたことです。アドバイザーは、地元のテレビ局で長年経験されていて、まずは落ち着くこと慌てると失敗するとアドバイスがありました。その通りで、落ち着くと全てが見えて、初めての体験が出来ました。

「楽しい」をモットーにした支援する会の皆さんだったので、本当に楽しいボランティア活動が出来ました。ありがとうございました。最後に、私が作ったケーキをいつも美味しく食べてってくれて嬉しかったです。



徳永さんの熱意に感動、支援する会へ

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

炊き出し班 川副 由紀子

映画「ら・かんぱねら」に関わったきっかけは、数年前にモデルの徳永義昭さんの奥様・千恵子さんと知り合い、ご主人のピアノに対する熱意と努力の凄さを知って感動したからです。何かの形で協力できないかと思っていたので少しだけですが手伝いができ、そして支援する会の皆さんと活動する事で色々と勉強になり、良い刺激を受けました。

最初は、エキストラでダムの岸辺に植林をするシーンに参加しました。初めての伊原剛志さんと緒形敦さんをお隣にしての出演は、ドキドキワクワクで貴重な体験でした。反面、皆さんが朝早くから準備に取り掛かり、見事な大漁旗が並ぶロケ地づくりに参加できなかった事は申し訳なく思っています。

印象に残っているシーンは、白石町の剣道場での撮影で、伊原さんの真剣な表情で「もう迷つとる暇はなかよな」というセリフに私自身の心も刺される想いでした。協賛金のお願いでは、久しぶりにお会いした人や思わぬ人からの協力だったり、新たなご縁もあって本当に感謝感謝でした。

また炊き出しでは、最後の炊き出しの日に手伝いが出来ました。その日は品数も多く、色々と差し入れもたくさんあり、イベント会場の様によく賑わっていました。メニューが焼き鳥丼、スープ、サラダ、煮物等など、あんな大量に鶏肉を見たのは初めてでした。プロフェッショナルのようなママさんが数名おられ、手際の良さに感心しました。撮影が長引き、片付けを終えたのは夜遅い時間でした。疲れもあるのに皆さん笑顔でした。素晴らしいチームワークです。撮影が終了して徳田邸の家具、食器、小物などの片付けを手伝いました。お茶碗、カップ、ベット、タンスなどほとんどが東京から運ばれてきたとは驚きました。そのどれもが映画では、大きな役割を果たしてセリフのない俳優さん達でしたね。また、次の現場で活躍する事でしょう。

支援する会の皆さんには、パワーいっぱい！個性いっぱい！愛情いっぱい！の人たちでした。皆さんとの共通な思いは、映画館を観客で一杯に出来たら夢が叶い最高です。



夢があれば～いつか叶う

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
副事務長兼クラウドファンディング担当 山口 真知



映画鑑賞にハマり好きなことを仕事にしたいと思い、映画業界への就職を志した大学時代。あれから10年、思いもよらない方向に人生は進み、縁もゆかりもなかった佐賀の地で、映画の話が舞い込んだ。

夢を叶えた海苔漁師をモデルにした映画で、映画づくりに携わるすべての人々の夢が詰まった作品となり、地元の支援者が紡いだノンフィクションに私の心は動かされた。

よそ者に無償の愛をささげる佐賀の人々。この県民性に惹かれて私は、ここ佐賀に移住を決断したことを思い出し、その決断を密かに肯定することができた。

撮影現場を通じてその魅力が出演者や製作者に伝わったことは間違いない。スクリーンを通して、この魅力が全国に広がることを切に願う。

本編で描かれた自然と向き合う漁師の尊さ、これを支える人間の愛。普遍的で、観る者、観る時代を選ばない。何年経とうが色褪せないこの作品とともに、佐賀の豊かな人の心を後世に伝えていくことを誓う。



映画での出会いと始まり

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

撮影サポート 藤田 泰則

私は2023年10月、映画「ら・かんぱねら」を支援する会の発会式が佐賀市内のホテルで開かれ足を運んだ。

会場へ入ると各メディアの記者の中に、この映画のモデルとなった徳永義昭君と映画を支援する会のBOSS川崎賢朗君がいた。

彼らとは同じ高校の同級生だったが距離を置いていた。「この人が今話題の人か」と…そして、ここで初めて聴いた徳永君の演奏…

その後クランクインとなり、友人が作ってくれた団扇を持参してロケ現場へ！その時、味わったロケ弁は今でも忘れられない。



私は、日頃より映画が好きで多い時には月2本は観ているが、その殆どが洋画で邦画はあまり興味がなかった。そして暫くして試写会の日がやって来た。初めて観た映画「ら・かんぱねら」は、あまりの素晴らしさに言葉を失った。

この映画は、1人の男のサクセストーリーに止まる事なく、ピアノという音楽を通して苦悩と葛藤が交差しながら、家族愛・友人愛・隣人愛が描かれている。そう、映画と言えばパソコンや携帯で観る昨今ではあるが、やはり映画は劇場へ足を運び大画面のスクリーンで観るのがベストである。そうすれば、感動や喜びが倍増するに違いないと思います。

想い出の一枚



深夜の食事準備



佐賀城公園で記念写真



炊き出し隊の休息



浪漫座で記念写真



クランクアップ



SAGAアリーナでのPR活動

愛車が衣装運搬車として活躍

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
広報部(SNS担当)兼ドライバー 藤田 佳典

映画「ら・かんぱねら」の撮影に向けて、先乗りしてきた撮影部スタッフが県内のあちこちを駆け回って、撮影地や機材、小道具などを選定している中で、私に白羽の矢が立ったのは「衣装運搬用に自家用車を提供して貰えないか？」との要請でした。

当時キャンピングカー仕様に改造していましたが「もちろんOK！」の二つ返事で、息子と二人ですべての機材を車から降ろし、数時間かけて空っぽの状態にしました。それから、スタッフの要望通りに棚と衣装掛けを設置しました。映画のロケ中は大変な活躍をしてくれて、約1か月間衣装運搬車としての務めを終え帰っていました。実は、ちょっとだけ接触事故も起きましたが、小さな傷程度だったので記念に残しています(笑)

私もロケ中は、ドライバーやエキストラ、スタッフ補助、SNS広報部など色々と経験させて頂き、映画のスタッフから「これは佐賀モデルと言っていいですよ！こんなにボランティアの皆さん達が協力して動いてくれたことはないよ！」と言って貰いました。

きっと映画に関わっていなければ出会うことはなかったであろう素晴らしい仲間達に。

感謝を込めて…そいぎまた(^^)/~~~~



支援する会に参加して

映画「ら・かんぱねら」を支援する会 藤田 昂琉

